

五明地区タウンミーティング

平成23年1月13日（木）19：00～20：30

司会：皆さんこんばんは。今日は寒い中、ようこそお越しくださいました。今回のタウンミーティング、和気あいあいとした一時間半になればいいと思っております。

それでは、野志克仁松山市長から皆様にごあいさつを申し上げます。

市長：皆さんこんばんは。お昼のお仕事があつてお疲れのところお集まりいただき、ありがとうございます。

さて、私の公約のキャッチフレーズは「一人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山」です。財政が厳しい中、いろいろとバランスを取りながらになってしまいますが、本当に一人でも多くの方を笑顔にしたいと思っています。そこで、そのための政策の柱を7つ掲げておまして、その中の一番目に『「誇れる」行政サービスで笑顔に』があります。この誇れる行政サービスというものの一つがこのタウンミーティングです。私が皆さんのところへ出掛けてまいりまして、前向きの議論をしたいと思っています。前向きということが大事だと思っていますので、将来に繋がるという意味で、まず地区の良いところを教えていただく、そして地区の課題を教えてください、そしてできれば改善に向かっていくように一緒になって考えていければと思っています。

今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

司会：今日は、皆さんの忌憚のないご意見を聞かせてください。発言するときに手を挙げていただいて、最初に名前を教えてください。

さあ、五明の魅力、市長は知らないかもしれないけれど、こんなに良いところがあるよっていうのをぜひ教えてください。

〇〇（男性）：僕はここの生まれではありません。2年前にここに惹かれて、久米の方から移って来ました。生まれは千葉で、愛媛には縁もゆかりもないんですが、もしこの地域の方に許していただけるのであれば、最期の住処にしようかなと思っています。私がここに移り住んだのは、街の暮らしにはない、食べ物であったり、森の恵みであったり、人生のいろんな技を持ったじいちゃん、ばあちゃんという人的資源、そういう豊富な資源があるので住みたいと思いました。あとは、実は街から近いんです。2年間住んでみて、街では得られなかった安心感があるんです。あれ持ってけ、これ持ってけ、これが採れた、そういう森の資源が近くにある。資源が近くにあることが最大の魅力かなと感じます。

〇〇（女性）：生まれは市内の方で、こちらに来て13年ほど経つんですけど、五明の良さっていうのは、やっぱり人の温かさじゃないかと思うんです。みんなが顔見知り

みたいな感じで、すぐに声をかけていただき、市内からもそんなに離れてないので、車に乗る私はあまり不便を感じないので、住んで良いところだなと思います。

〇〇（男性）：魅力がないけん、今若い人がおらんのです。結婚まではここに居るんですよ。結婚した途端に奥さんに引かれてか市内に出て行ってしまう。今、公民館の役をしている人が50歳よりは上。だから市長さんに頼んで、もっと五明を魅力があるところにしてもらったら、五明に住んでくれる若い人が来るんじゃないかな。若い人が入ってくれんなら、五明は寂れてしまうんじゃないか、そういう心配はあります。

市長：今、お二人が繋がりがあると言われました。これは最大の魅力だと思うんです。朝日新聞の1月4日の記事ですが、北条の安居島に5人家族が移り住んだんです。それはお父さんが37歳で、奥さんが37歳、子供が13歳、4歳、1歳8か月、島に魅力を感じて来られたんですね。やっぱりこういう繋がりがあるといのが最大の魅力だと思いますよ。これは常に申し上げているんですけど、やっぱり前向きになると、人の魅力とか街の魅力に気付くんですよ。ついつい同じ街に住んでいると、どうせとか言ってしまって、自分の街のことを過小評価してしまうんですけども、やっぱりその繋がりがあるといのはものすごい魅力だと思うんですよ。

大きな地震が起こって家が倒壊してしまったとき、繋がりがあつたらあその家にはおじいちゃん、おばあちゃんが居たはず、姿が見えんなあつて言って助けに行くことができる。そして、介護・子育てでも、お互い助け合ったらまた違ってくると思いますし、子育ても一人やったら抱えてしまうけど、繋がりがあるとこだったら、ちょっと隣のおいちゃん見とってとか、そういうことができます。ついつい過小評価してしまうんだけど、繋がりがあるといのは本当に大事なことで、これをしっかり見ていただきたいと思うんです。都会ではなくなっている。それがこの五明にはあるんです。

〇〇（男性）：市長さんが言うように、隣近所の付き合いは、それこそ親戚以上の付き合いができていて、そこが魅力といえば魅力かも分らないですね。

市長：ちょっとでもいい方向に向かって進めていこうっていうのがこの会の趣旨でありますので、また、忌憚のない意見をお願いします。今は私の方が、「いやいやそこは魅力なんですよ！」って申し上げたんですけども、これからまた皆さんに言っていただきたいと思います。

〇〇（男性）：12月23日でしたか、愛媛新聞の一面に、牧病院のことが日本一の環境だと大きく書いてあります。春は筍、土筆が出て、うぐいすが鳴き、ホトトギスがさえずり、夏は盆踊りをしたり、みかんやぶどうがたわわで、環境がいいんです。

ただ、猪が大分出没してるんです。あれで芝生とか、ぶどうをやられる可能性があつて心配だと、猪対策を考えてもらわないといかんと話しているんです。それからバスが赤字やから路線を削るという話が出てるんです。バス路線を減らすと子供が中学校に通えないんです。もう一つは廃棄物を捨てるとこがあるんですが、地下水が大丈

夫かな、みんな飲料水に井戸水を使ってるんですが、廃棄物が規制に合っているのかなど。それが私が気になっていることです。

市民部長：今日は環境部が来ていないので、これについては後日回答します。

〇〇（男性）：産業廃棄物のことについては、25年前に県の許可を得て、5年間の契約でやらせてくれていたことでした。産業廃棄物の灰を50センチ入れたら土を50センチ入れて、という約束だったんです。5年間くらいはそのままだったんですけど、それから一般家庭ごみを持ってき始めたんです。それをカラスが突いて、今はワヤです。再々私たちも市へお願いに行っただけなんですけど、今年の春ようやくごみを入れるのだけは止めて貰ってるんですけど、底は穴が開いて灰が下から出て、将来は水俣の二の舞になるんじゃないかと心配しております。

市民部長：この件については廃棄物行政に関連することなので、そのあたりの経緯を調べて、整理してからご報告ということでご理解いただいたらと思います。

市長：ここで終わりってということじゃなく、必ず市からご報告をする形にします。

司会：バスの路線を削るという話があったんですけど、バスが無くなったら、ちょっと不便なんやけどっていう人、この中にどれくらいいらっしゃいますか。手を挙げてください。

挙手（半数近く）

市長：確かに免許をお持ちでも高齢になると、運転が不安になってきたってということで、免許を返納される方もいらっしゃいますけども、確かにデータを拝見すると、バスの利用が減ってきているという現状はあるんですよ。

都市政策課長：なかなか行政だけでこれを解決するのは難しいことだと思いますが、中山間地における地域公共交通の維持確保について、事業者、地元の方々、さらに行政でできることを一緒になって考えていくという会を設けており、少し時間はかかるかも知れませんが。うちも猪が出てるっていう方どれくらいいますか？

挙手（半数近く）

〇〇（男性）：猪だけじゃなく野生動物による被害が、この五明地区でも年々大きくなってます。松山市で有害駆除という事業を行って来ていますが、昨年も私ども猟友会が中心となって、この地区で捕獲活動を行いました。猪と猿は、捕獲すると市から助成金をいただけるんです。ですが、我々が一生懸命捕獲しても、予算が足りないので捕獲数の2、30%はカットしてくださいといわれる。これがもう2、3年続いております。この予算の確保を市長さんにぜひお願いしたい。これが一点と、それから有害鳥類です。五明ですとカラスとヒヨドリ被害が大きいんです。カラスは今のところ助成の対象になっておりませんので、駆除してもお金は出ません。カラスも、補助の対象にさせていただいたら効果がより上がるんじゃないかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

市長：中島も、今猪がひどいんですよ。北条も玉川との境にかけて猪が多い。五明も

そうですし、今、本当に猪が多いので対策に苦慮しているというのが現状ですね。ちょっとお伺いしたいです。猪の捕獲はどのような方法でするんですか。

〇〇（男性）：我々五明猟友会の場合にくくり輪という、わっかを踏んだら足が閉まるというものです。

産業政策課長：有害鳥獣対策事業として二つの補助をしております。一つは有害鳥獣の捕獲に対しての奨励金で猪が一匹2万円、猿が3万円。もう一つは、鳥獣被害に対しての電気柵などの工作物の設置に対する補助です。鳥獣被害に対する予算措置とか、カラスに対する奨励金については、被害等の状況をよく見た上で検討させていただきたいと思っております。

市長：カラスはどんな悪さをしますか。

〇〇（男性）：五明の特産物、ぶどうとかみかん、こういった果実類に被害があります。肥料まで食べるという状況です。

市長：ぶどうは特産ですよ、ぶどうも狙われるんですか。

〇〇（男性）：威嚇射撃をして追っ払うという方法もやっとするんですけど、今一つ効果が上がらないという状態なんです。せめて弾を買うお金がいただければ、もっと効果が上がるのではないかと思っています。

〇〇（男性）：今は西瓜が安くなったんかもわかりませんが、作りよる人はあまりいないんですよ。それはカラス除けで上に網を張らんといかんのがかなりな手間です。それもやっぱりこの五明地区のごみの工場のためにカラスが増えてるんじゃないかと思うんですよ。

〇〇（男性）：ある人が、五明に来たら星がすごい近いんで、こんないいところだったらすぐにでもここへ来たいと言って土地を探しよったんです。それが、住みたいけど農地やから許可が出んという土地が大分あると思うんです。古い家を探すのもいいけど、新しく家を建てて、こっちに住みたいという人がかなりいると思うんです。規則を破れとは言わんけど、そういうことをせんと子供らが増えんと思うんです。

市長：五明にお住まいの方で、結婚と同時に街の方に出て行ってしまうというお話を聞きましたけど、やっぱりそういう家は多いですか。

〇〇（男性）：ええ、それで若い人が居らんなる。

市長：私が見た例では、鬼北町の街の中心部からちょっと離れたところ、五明と同じような立地条件のところ、同じような住宅が並んでるんですね。町の方に「あれは何ですか」って聞いたら、若い人向けに貸しているっていうことで、ああ、そういう取り組みもあるんだなあと思ったことがありました。

都市政策課長：農地だから住めないという話でしたが、都市計画の関係から申しますと、都市計画区域外で、都市計画法上の制限とかは、基本的にはございませんので、農地法の関係があるのかと思います。

市民部長：混乱してもいけませんので、具体的な回答は後日にさせていただきます。

市長：できるのであれば、鬼北町で私が見たような、そういう若夫婦が住むような家があればまた状況が違ってくると思います。

〇〇（男性）：五明小学校では校区外通学が叶いまして、街から通う子供が増えてきて、校区外通学が可能だということを知った保護者の方の中に、通いたいという方と通うのが大変なのでいっそのこと一時期でもここに住みたいという方がいらっしやいます。住みたいって言う場合、いろんな手はあると思うんですけど、そこを都市と五明との繋がりという政策的な観点で何とかならないものなのでしょうか。

松山市ってすごく良いところだと思うのは、山と里と都市と海があり繋がってるんです。都市との繋がりを意識して、市全体の魅力に繋げる、こういった観点からいろんなことを考えていただくと、もっと前向きなことが可能になると思います。本当にこの環境に惚れて、住みたいけどなかなか住めないというような状況ですから。そこをぜひ何か政策ができないかな。鬼北町のように。

市長：今、もう一回繋がりって言うのを言ってもらいましたが、もう一回追加させてもらいますと、昔は五明みたいに街中でもおじいちゃん、おばあちゃんがそばにいて近所のおいさん、おばさんから怒られることもあって、そういう繋がりがありましたけど、徐々に時代の流れと共に、個人、個の文化になってきましたよね。ちょっと私は行き詰ってしまったと考えるんですよ。私はそういう繋がりのある世代に戻したいと思っていて、お互い様、おかげ様って言葉があるじゃないですか。そういう文化に戻したい。「お互い様」、「おかげ様」、「繋がり」、これからのキーワードはそれだと思います。どうせやったら五明に住みたいと言ってる人がいるから、やっぱり五明には魅力があるんです。魅力がないと思ってしまうたら見誤ってしまうと思うんですよ。五明には魅力があるんだということに胸を張っていただきたいと思います。

〇〇（女性）：五明小学校は、来年度は24名中10名が他の校区から通ってきます。小学校の間だけでもぜひ来たいと言われる方も何人も居られます。自然の中で皆さんに協力していただいて、子供たちを支えて、色々教えていただいたりしているんです。五明太鼓や伊予万歳とか、古い伝統も地域の方に教えていただいています。それをふるさと祭りや蛸祭りとかで地域に出かけて行って、そこで披露して喜んでいただいています。市内では一番少ない児童数の学校なんだけど、地域全体で見守ってくださっている、そういう繋がりを持ってくださり本当にありがたいと思っています。

どんぐり号に関しましてもこれからもきちんとお願いしたいということと、それから少ない人数だからこそ同年代の子供たちとの繋がりが大事なので、近くの小学校の子供たちと交流学习をしているんですが、どんぐり号の活用を考えていただけると、そういった繋がりができて魅力が増えてくると思いますので、そのあたりもお願いできたらなと思います。

市長：何でもできないかなと思ってしまうんで、地区の方々が移動手段に困ってるんだったら、そのバスを皆さんが使えないかっていうようなことを思うんですよ。

〇〇（男性）：まちづくり協議会でも、お医者さんに行くときとか、あのバスが使えたら、お年寄りが街の方に出ようっていう話があります。

〇〇（女性）：日浦では、スクールバスを利用して病院にも行くし、買い物にも行くし、便利に使わせてもらいよるんですよ。五明もそういうふうにしたらバスが少々減ってもどんぐり号が使える。そういうふうに市長さんの方で何とかならんでしょか。

（*注 日浦地区をはじめ松山市では、スクールバスを通院や買い物など住民の皆さんにご利用いただいている事例はございません。）

生涯学習政策課長：通学バスのどんぐり号は、購入に当たって国の交付金を活用しており、使用目的が限定されておりますので、なかなか他のものに転用しづらいというところがございます。

市長：「なるほどそういう経緯があったのか」というのが多いんですけど、補助金を貰っていると目的とか用途が問われるんですよ。皆さんは、これをうまく利用したらいいんじゃないかと思うんですけど、そういう経緯があるんですよ。でも、可能性はあるんだったら頑張りたいですね。

例えば、今、五明でまちづくり協議会の準備会をやらせてもらってますけども、私は上下関係はないと思ってるんですが、国と県と市があって、人間って「よろしく願います。」って言われたらいい気がするでしょう。国はなかなかその権限を渡してくれないんですよ。昭和20年以降の戦後の日本だったら、復興のために国が主導権を取るの良かったんですよ。でも今、各地区で事情が色々違いますよね。その場合にはどんどん国じゃなくて県、県じゃなくて市の方に、そして地域に色々権限を移譲してもらった方が都合がいいんです。ですからまちづくり協議会っていうのを作ってもらって、これが公平な組織だったら地域のことは地域に決めていただきましょう、そのためには権限と財源を移譲しましょうっていうのが今のまちづくり協議会の考え方なんです。さっき言われたスクールバスの使用目的が限定されるのもそういう経緯なんですよ。

市民部長：目的外使用についての制限だと思いますので、調査させていただきます。

〇〇：佛生寺というお寺の下に松山市所有の土地があるんです。前は五明小学校の先生方の宿舎が建ったんですが、老朽化したから撤去してしまおうたんです。更地になってから、あそこへ住宅を建ててくれまいかというお願いをしたんですよ。その時に市からは、建物が建ったら建て替えはするけども、撤去したものは新しくは建てられませんと返答があったんですよ。鬼北町のも町がやったと思うんですよ。小田にもあります。城川にもあるんです。もう一度お願いをして建てることはできないかなという気がするんですけど、どんなでしょう。もう20年以上遊んどる土地を利用していただいて、3軒か4軒くらいの若い人向けの住宅を建てていただいたらありがたいです。よろしく願います。

市民部長：これについては、現在教育財産として使っていないことになりますから、ど

ういう財産内容なのかを調べて、後日回答します。

市長：やっぱり公ですから、責任がありますので、ちょっともどかしく思うかもしれませんが、不正確なことは申し上げられないので後で回答します。

〇〇（男性）：先ほどの住宅の件ですが、人口減少について何が致命的かというところ結婚を機に大体が出て行くということです。街の方ではアパート・マンションがあって、空き部屋が一杯あるけど、五明や伊台、日浦には建っていない。山で、狭小地ですから庭先に別棟を建てるといっわけにはいかないし、アパートがないから地区外へ出る。そこで何年か経つと子供ができ、そこに落ち着いてというパターンができた。それを防ぐ方法は、鬼北町とか玉川にもある公営の借家、戸数はちょっとでもいいんですけど、それで村に子どもが残ってくれる。これはかなり大きな事だと思います。

〇〇（女性）：私は70年ほど五明に居るんです。一向に不便は感じておりません。バスもあるし、買い物は農協でできる。働くところも牧病院があるし、五明苑があるし、エリエールがあるし、そしてキャンプ場と大変恵まれております。

五明小学校は絶対なくなるじゃのいうことはせんように。中学校が22、3年前になくなってね。あれも続けとったら日浦のような感じで良かったんじゃないかなと思うて、過去のことじゃけんどうにもしようがないけど、五明小学校はどうしても存続してもらいたい。市長さんにぜひお願いしたいと思います。

〇〇（女性）：今おっしゃった不便を感じないっていうことについてなんです、菅沢とそれ以外の地域の不便さにとっても差があるということなんです。菅沢の方はバス停もありますし、不便さを感じないと思いますが、私の住んでいる柳谷は私の家までバスの終点から15分くらいで、上の集落になると20分、30分かかるとかになります。ある程度の歳までは、バス停まで降りてらっしゃいましたが、一定以上の高齢になるとそれもできなくなってしまふ。五明地区の不便さを考えるときには菅沢地区とそれ以外の地区を分けて、高齢者対策をどうやっていくかを考えなくてはいいけないと思います。

高齢者への配食サービスも柳谷は対象地区外で手続が取れなかったという話を聞いたことがありますので、そこら辺を細かく検討していく必要があると思います。でもそれ以外の自然という意味では、本当に星や月が綺麗ですし、私も住んでいられるのは近所の繋がりがあつ、おばさんたち、おじさんたちに優しく迎えられるので、それでいられるという、そういった魅力はとつても大きい所だと思います。

〇〇（男性）：五明の魅力を考えてみますと、五明は標高370mで、春先はうぐいすは鳴く、土筆は出る、ワラビとかいろんな物は出るし、五明が一番いい所だと思つております。そして街に出ようと思つと15分位あつたら出られます。仕事場も十分にあります。五明にこれらの施設がなかつたらもつと過疎化しておると思つております。このよつうな立派な施設を十分に活かしてやつていかなければならないと思つております。ただ五明で悪い点は、鳥獣の被害。これが今一番大きな五明過疎化の原因だと思つて

す。猟友会の方たちで猪を捕っても、補助が十分には出ない。五明単独でこの問題を解決しようと思っても無理だと思います。城北地区が一丸となって猪を獲ってそこで全部処理する。少なくとも猟友会にちょっとは肉の代価はもらえるという、これをやっていけば自ずと猪の数も減ってくると私は考えます。

猪が増える原因は、餌のドングリ不足です。パルプ工場みたいなのを造って、そこで現在の木を切っていけば僅か15年位のクヌギの木やったらドングリがなんぼでもなるんです。そういうことを利用して、山を活性化していけばいいんじゃないかなと考えるんです。市長さんをお願いするんですけども、五明は本当に高齢者が増加しております。だから今のうちにそういう対策をしていただいて、山の活性化も図っていき、猪の住処を山に求めていくようにすれば、自ずと良くなっていくと思うんですけど、どうでしょうか。

市長：そうですね。猪、今は駆除する方法を主に考えてますけども、逆の考え方ですよ。クヌギを植えて、ドングリを出すことによって猪の食料になるんじゃないか。それによって山から下りて来ないということになりますよね。あまり山の活性化ということに目が向けられてなかったですよ、今まで。

産業政策課長：確かに今、山と民地、住居とが隣接してしまって、昔はそこに緩衝地帯として畑とか色々な低木を植えていたわけです。しかしだんだん担い手がなくなり、放棄地になってしまって、民家の近くまで猪や猿が出て来たりということがあります。ですから駆除だけではなく、山林の育成とか総合的に考えないといけないということが起こっておりますので、検討したいと思っております。

〇〇（女性）：介護の方の関係なんですが、市の介護保険課でパンフレットを作っていただいて、いろんな介護保険制度についての説明、使えるサービスの情報を出していただいて、私もこれを使って説明しています。このパンフレットでは配食サービスとか色々なサービスが使えますよということを謳っていますが、実際はこの菅沢より奥の方にはお弁当とかは届きません。こういう所に住んでいる方にとっては、使えないサービスが入っております。できればパンフレットを作るときに、その地区に合ったものにして欲しい。同じに介護保険料や税金を払って、一生懸命頑張って暮らしている方が、最低デイサービスには行きたいとか、最低ヘルパーさんに来て欲しいとか、そのサービスさえも思うように使えてないという現状があります。せめて自由に自分で町へ出たりとかができなくなった方でも、最低週1回でも2回でもお風呂を利用して一緒にみんなとご飯を食べれるくらいのサービスが使えるような支援というのを考えていただいたらありがたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

保健福祉政策課長：今、お持ちになられているのはこのパンフレットだろうと思うんですが、地理的条件とか、そこに住まわれている方の条件に合っていないという内容が部分的にあるだろうと思ってます。今後五明地区あるいはその他の地区にもその地区の特性を活かしたきめ細かな支援ができるよう、今日お聞かせいただいた内容を含

めて検討してまいりたいと思います。

〇〇（男性）：皆さんご存知のようにまちづくり協議会の準備会は50名弱のメンバーで一生懸命頑張ってやっております。この4月に準備会を終了して正規にまちづくり協議会にしたいという予定で進めておるのですが、予算の枠をできるだけ長くまちづくりに充ててもらおうようになったら嬉しいなと思うことと、その予算の枠を使う制限をできるだけ緩めていただいて、まちづくり協議会の予算を有意義に地元にあったような使い方でやらせていただいたらありがたいなと感じておりますのでお願いしたいと思います。

〇〇（男性）：私も五明地区に住んでいる訳ではありません。住んでる方はなかなか謙遜されて出ないと思いますので、ぜひ魅力についてお話させていただきたいと思います。まず環境が抜群にいい。地下水がとてもおいしい。そしてぶどうや柿や桃、果物が大変おいしく高品質な物ができる。そして人です。人がすばらしい。五明小学校、大変子供たちがすばらしい。またそれを支える地域の人たちに温かい思いがあります。人との繋がりを非常に強く感じます。子供たち一人一人が自主的な活動をしております。礼儀正しい。また五明太鼓、獅子舞の伝統も受け継がれている。また伊予万歳の保存地区でもあるということで、そういう伝統文化が今も人から人へ伝承されていくという、人の繋がりが素晴らしい地区だと思っております。また、野外活動センター、そして佛生寺さんの桜がすばらしい。筍、ワラビ、ゼンマイ、たらの芽、アケビとかいろんな自然に恵まれた地域だと感じております。

司会：最後に市長から、感想、総括をお願いします。

市長：1時間半という時間ではありましたが、本当にありがとうございました。最初は、やっぱり1回目ということで、ご意見出してくださるのかなという思いもあったんですけども、後半になればなるほどどんどん手が挙がるようになって良かったなと思っております。本当に魅力についての共通認識ができたんじゃないかと思えますし、また課題も浮き彫りになってまいりましたので、しっかりと課題を受け止めさせていただいて、今後活かしていきたいと思っております。このタウンミーティングは市内41地区で開催しますけれども、市長の任期は4年です。まずはこの4年に全力を尽くすということで、1か月に1回のペースで進めていきたいと思っております。これを市政にできるだけ反映していきたいと思っておりますので、今後とも皆様、松山市政の推進にご協力いただきますようお願いいたします。今日は長い時間本当にありがとうございました。

司会：どうもありがとうございました。